図書館だより

柏崎常盤高等学校図書館　令和５年７月号

令和５年７月１２日発行

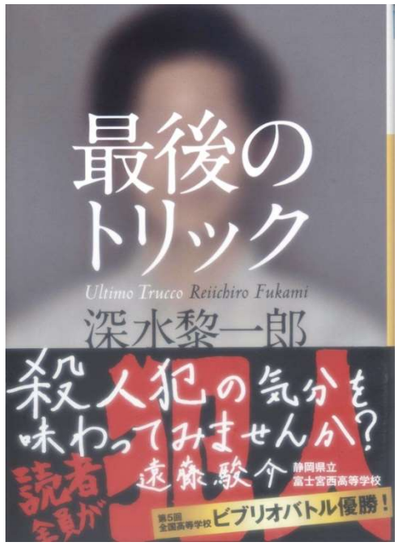
新任の先生方のおすすめ本の紹介

★増川　義行　校長先生のおすすめ本
『オーパ！』　　開高　健/著　　集英社

『オーパ！』は小説家の開高健が 1977 年、65 日間に渡ってアマゾン川を旅したレポートです。私は中学生の頃、図書館で初めてこの本に出会いましたが、著者が釣り上げたピラーニャ、ドラド、トクナレ等々、見たこともない怪魚の写真に目を奪われました。またグルメでグルマンであった著者らしく、現地の食事風景もスゲェ！の一言です。今では最初に刊行された本に加え、文庫版や復刻版も持っていますが、ページを繰るといつでもあの頃の昂揚感や冒険への憧れが蘇ります。加えて、文明の伸張と人類の手による自然破壊への恐怖や憂鬱も描写されており、半世紀近く経過した現在への警鐘も感じられます。

釣り好きのアウトドア派はもちろん、芥川賞作家である著者の文章はインドア派の読書好きにもお薦めします。300 点以上掲載されている鳥獣虫魚の美しい写真を見るだけでも手に取る価値あり。

３学年図書委員のおすすめ本です



★３年１組　図書委員のおすすめ本
『最後のトリック』　深水 黎一郎/著　　河出文庫

「『読者が犯人』というミステリー界最後の不可能トリックのアイディアを二億円で買ってほしい」――スランプ中の作家のもとに、香坂誠一なる人物から謎の手紙が届きます。命と引き換えにしても惜しくないほどのトリックとはどんなものなのか、香坂誠一は一体何者なのか、ドキドキしながら読める小説です。

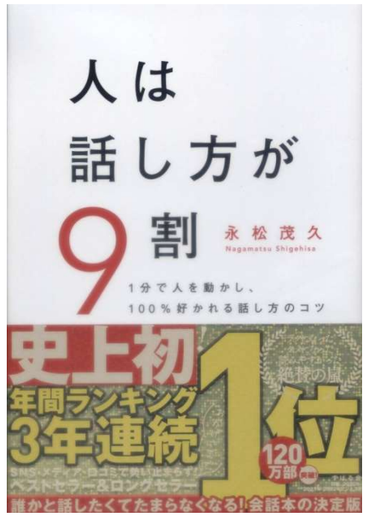
斬新で賛否両論ありそうなトリックですが、この本を閉じた時、犯人は自分だ、と頷いてしまうような作品なので、ぜひ一度読んでみてください。

伏線が巧妙に張られていて、物語が終盤に差し掛かるにつれてページをめくる手が止まらなくなるので、時間がある時にどんどん読み進めるのがおすすめです。

★３年１組　図書委員のおすすめ本
『ようこそ実力主義の教室へ』
衣笠 彰梧/著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

物語の舞台は、高度育成高等学校という特殊な学校。この学校では、優等生のＡクラスから劣等生のＤクラスまでの４つのクラスに分かれ、特別試験などでクラスポイントを獲得し、Ａクラスで卒業することを目指す。特別試験では、試験内容に関する実力はもちろん、表舞台からは見えない水面下で行われる、高度な戦術や読み合いがぶつかり合い、白熱した戦いが繰り広げられる。

この物語を読めば、洗練された展開の連続に興奮させられること間違いない。さらに、登場人物たちの友情や努力する姿は、学校生活の尊さを教えてくれるだろう。是非、白熱した心理戦や高校生活の青春を、この作品で味わってみてほしい。



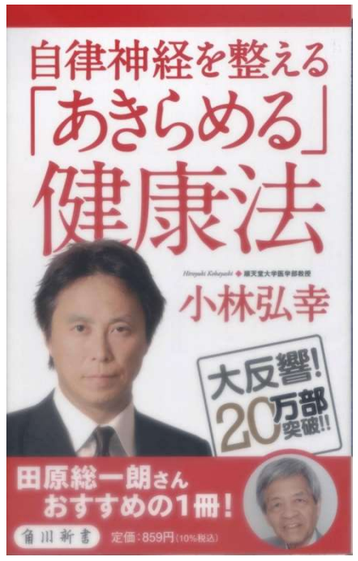
★３年２組　図書委員のおすすめ本
『人は話し方が９割』　　永松 茂久/著　　すばる舎

僕が紹介する本は、永松茂久さんの『人は話し方が９割』です。この本では、日常生活のコミュニケーションにおいて、意識した方がいいことや原理についてイラスト付きで分かりやすく解説されています。これから役立つような知識も多くあるのでとても勉強になります。

文字も小さくなく、具体例を添えて説明されているので、あまり本を読んだことがない人でも読みやすいと思います。例えば、「話し方で失敗し、思うような成果が上げられなかった人が、どのように意識を変えたら成功に繋がったのか」や「相手の話の聞き方」などは、興味のある人も多いと思います。

また、詳しい項目ごとに分かれているので、自分の読みたい内容から読んでみるのもいいと思います。少しでも興味のある人は、ぜひ読んでみてください。

★３年２組　図書委員のおすすめ本
『自律神経を整える「あきらめる」健康法』
小林 弘幸/著　　角川書店



皆さんはさまざまな悩みや心配があると、ついネガティブな感情にとらわれませんか。ネガティブな感情を抱くと、自律神経のバランスが崩れて仕事などに集中できなくなります。ですが、自律神経のバランスを乱しているネガティブな感情は、皆さんが何かを「あきらめていない」ために消えずにいるのです。

ほとんどの人が「あきらめる」というと、物事を途中でやめてしまうことだと思います。しかし「あきらめる」は「諦める」ではなく「明らめる」ことでもあります。この本では「明らめた」生き方をした有名人が成功した話が書いてあります。自分も、人生のためになる話がいくつかあり参考になりました。皆さんもぜひ読んでみてください。

新着図書の紹介

司書のおすすめ！

●『たとえ祈りが届かなくても君に伝えたいことがあるんだ』
汐見 夏衛/著　　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

高校二年生のなずなのクラスメイト鈴白君が突然命を絶った。彼の悩みに気づいていたらと後悔が膨れ上がり、彼と一緒に作った砂時計に「時間を巻き戻したい」と願って眠ると、なずなは一カ月前に戻っていた。しかし彼はまた死を選んでしまう。彼を助けるため、同じ一カ月を何度も繰り返す。

あの時ああしていれば、あんなことしなければ。あの時どうしてあんなことを言ってしまったんだろう、どうしてああ言ってあげられなかったんだろう。やるべきだったのにできなかったこと、やってはいけなかったのにしてしまったこと。そういう後悔を、誰もが心の中にひっそりと抱えているだろう。

もしその相手が、もう二度と会えない人だったら、その後悔を自分の中から消し去ったり軽減したりすることは難しく、むしろ会えないからこそどんどん大きく、色濃くなっていってしまうこともある。

そんな絶望や無力感に打ちひしがれている人たちの気持ちを少しでもやわらげたい、という思いで著者はこの物語を書いた。

リクエストにより購入

●『きのうの春で、君を待つ』
八目 迷/著　　小学館　ガガガ文庫

東京に父親と住む高校２年生の船見カナエは、春休みの春期講習をさぼったことで父親ともめ、中学３年生まで住んでいた離島・袖島に家出し、そこで時間を遡る現象“ロールバック”に巻き込まれる。彼は、乱れた時間の中で、２年ぶりに再会した幼なじみの保科あかりに、「お兄ちゃんを救ってほしい」と頼まれる。ロールバックを利用し、数日前に亡くなったあかりの兄・彰人を救うため奔走するカナエ。しかし時間を遡っていくうちに、あかりの秘密が明らかになっていく。

「言わなくても分かって欲しい」と人はつい思いがちだ。だが、伝えなければ伝わらない。わかっちゃいるけどできないのが人間だ。その歯がゆい感じや、ありがちな設定もテンポの良い筆運びで飽きさせない。朝読書にどうぞ。

●『ラブカは静かに弓を持つ』　　安壇 美緒/著　　集英社

友だちも彼女もいない 20 代半ばの橘は、ある日上司に呼び出され、音楽教室への潜入捜査を命じられる。目的は著作権法の演奏権を侵害している証拠をつかむこと。ボールペン型の録音機を持ち込み、チェロの上級者クラスを受講する。

少年時代にチェロを習っていた橘は、チェロ教室の帰りにある事件に遭遇し、それ以来、深海の悪夢に苛まれながら生きてきた。チェロに触るのはその時以来だ。不安と不満を抱えながら、仕方なく上司の命令に従うが、チェロ講師・浅葉やチェロ仲間との交流、そして音楽を奏でる歓びが橘の心に変化をもたらす。

2023 年本屋大賞第 2 位
第 25 回大藪春彦賞受賞
第 6 回未来屋小説大賞第 1 位！

寄贈図書の紹介

●『データでわかる 2030 年 地球のすがた』
夫馬 賢治/著　　日経ＰＢ　日本経済新聞出版本部

未来を予測するのは簡単ではない。だからといって何もせず流れに身をまかせていたのでは、何かが起きた時に対応できない。新型コロナウイルス感染症をとってみても、準備していた国とそうでない国で対応にかなりの差があった。

未来がどうなるのかということは、どこに住むか、どういう職業につくかといった生き方の選択にもつながる問題なのだ。

変化の波は大きく、長い時間をかけておしよせてくることもあるため、気付きづらかったりもする。そこで、現実のデータを見て、実情を理解することが大切だ。

本書では、重要性の高い「気候変動」「農業」「森林」「水産」「水」「感染症」「パワーシフト」「労働・人権」の８分野について、グローバル企業や機関投資家の間で共通認識になりつつあるデータを基に、現状と今後の見通しを俯瞰している。

夏休み特別貸出始まる！

７月１３日（木）～冊数無制限！
返却期限：８月２８日（月）始業式

挫折した
あの長編に
再挑戦しよう！

◎夏休みの閉館日は８月９日～８月１６日です。
この日以外の平日はすべて開館予定です。
（都合により閉館する場合もあります）

開館時間：**13:50～16:45**

図書館からのお願い

読んでしまって、不要な本があったら、図書館に寄贈して下さい。
よろしくお願いします。　（汚れ、傷みのひどいものはご遠慮ください。）